

## 中教審、「令和の日本型学校教育」打ち出す！

〈「令和の日本型学校教育」の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～（答申）〉

令和3年1月26日、中央教育審議会は、「『令和の日本型学校教育』の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～（答申）」を取りまとめ、公表した。

中教審答「『令和の日本型学校教育』の構築を目指して～」概要（全日教連要約・抜粋）

### ○ 第I部 総論

#### ◇ 2020年代を通じて実現すべき「令和の日本型学校教育」の姿

##### ① 個別最適な学び（「個に応じた指導」（指導の個別化と学習の個性化）を学習者の視点から整理した概念）

- 指導方法や指導体制の工夫改善や、少人数によるきめ細かな指導体制の整備を進め、「個に応じた指導」の充実を図る
- コンピュータや情報通信ネットワーク等の情報手段を活用するために必要な環境を整え、これらを適切に活用した学習活動の充実を図る
- その際、「主体的・対話的で深い学び」を実現し、学びの動機付けや幅広い資質・能力の育成に向けた効果的な取組を展開し、個々の家庭の経済事情等に左右されることなく、子供たちに必要な力を育む

##### 【指導の個別化】

- 基礎的・基本的な知識・技能等を確実に習得させ、思考力・判断力・表現力等や、自ら学習を調整しながら粘り強く学習に取り組む態度等を育成
  - ・ 支援が必要な子供により重点的な指導を行うこと等効果的な指導を実現
  - ・ 特性や学習進度等に応じ、指導方法・教材等の柔軟な提供・設定を行う

##### 【学習の個性化】

- 基礎的・基本的な知識・技能等や情報活用能力等の学習の基盤となる資質・能力等を土台として、子供の興味・関心等に応じ、一人一人に応じた学習活動や学習課題に取り組む機会を提供することで、子供自身が学習が最適となるよう調整

- 「個別最適な学び」が進められるよう、これまで以上に子供の成長やつまづき、悩みなどの理解に努め、個々の興味・関心・意欲等を踏まえてきめ細かく指導・支援することや、子供が自らの学習の状況を把握し、主体的に学習を調整することができるよう促していくことが求められる
- その際、ICTの活用により、学習履歴（スタディ・ログ）や生徒指導上のデータ、健康診断情報等を利活用することや、教師の負担を軽減することが重要

##### ② 協働的な学び

- 「個別最適な学び」が「孤立した学び」に陥らないよう、探究的な学習や体験活動等を通じ、子供同士で、あるいは多様な他者と協働する
- 他者を価値ある存在として尊重し、様々な社会的な変化を乗り越え、持続可能な社会の創り手となることができるよう、必要な資質・能力を育成する「協働的な学び」を充実することも重要
- 集団の中で個が埋没してしまうことのないよう、一人一人のよい点や可能性を生かすことで、異なる考え方が組み合わせられ、よりよい学びを生み出す

- 知・徳・体を一体的に育むためには、教師と子供、子供同士の関わり合い、自分の感覚や行為を通して理解する実習・実験、地域社会での体験活動等、様々な場面でリアルな体験を通じて学ぶことの重要性が、AI技術が高度に発達するSociety5.0時代にこそ一層高まる
- 同一学年・学級はもとより、異学年間の学びや、ICTの活用による空間的・時間的制約を超えた他の学校の子供等との学び合いも大切

#### ◇ 「令和の日本型学校教育」の構築に向けた今後の方向性

##### (1) 学校教育の質と多様性、包摂性を高め、教育の機会均等を実現する

- ・ 基礎学力を保障してその才能を伸ばし、社会性等を育むことができるよう、学校教育の質を高める
- ・ 学校に十分な人的配置を実現する
- ・ 1人1台端末や先端技術を活用しつつ、多様化する子供たちに対応して個別最適な学びを実現する 等

- (2) 連携・分担による学校マネジメントを実現する
  - ・ 校長を中心に学校組織のマネジメント力の強化を図る
  - ・ 外部人材や専門スタッフ等、多様な人材が指導に携わることのできる学校を実現する
  - ・ 事務職員の校務運営への参画機会の拡大、教師同士の役割の適切な分担 等
- (3) これまでの実践と ICT との最適な組合せを実現する
  - ・ GIGA スクール構想の実現を最大限生かし、教師が対面指導と遠隔・オンライン教育とを使いこなす
  - ・ ICT を活用しながら協働的な学びを実現し、多様な他者とともに問題発見・解決に挑む資質・能力を育成 等
- (4) 履修主義・修得主義等を適切に組み合わせる
  - ・ 義務教育段階においては、進級や卒業の要件としては年齢主義を基本としつつも、教育課程の履修を判断する基準としては履修主義と修得主義の考え方を適切に組み合わせ、「個別最適な学び」及び「協働的な学び」との関係も踏まえつつ、それぞれの長所を取り入れる
  - ・ 高等学校教育においては、その特質を踏まえた教育課程の在り方を検討
  - ・ これまで以上に多様性を尊重、ICT 等も活用しつつカリキュラム・マネジメントを充実 等
- (5) 感染症や災害の発生等を乗り越えて学びを保障する
  - ・ 「新しい生活様式」も踏まえ、子供の健康に対する意識の向上、衛生環境の整備や、新しい時代の教室環境に応じた指導体制、必要な施設・設備の整備
  - ・ 臨時休業時等であっても、関係機関等との連携を図りつつ、子供たちと学校との関係を継続し、心のケアや虐待の防止を図り、子供たちの学びを保障する
  - ・ 感染症に対する差別や偏見、誹謗中傷等を許さない
  - ・ 首長部局や保護者、地域と連携・協働しつつ、率先して課題に取り組み、学校を支援する教育委員会の在り方について検討 等
- (6) 社会構造の変化の中で、持続的で魅力ある学校教育を実現する
  - ・ 少子高齢化や人口減少等で社会構造が変化する中、学校教育の持続可能性を確保しつつ魅力ある学校教育の実現に向け、必要な制度改正や運用改善を実施
  - ・ 魅力的で質の高い学校教育を地方においても実現するため、高齢者を含む多様な地域の人材が学校教育に関わるとともに、学校の配置や施設の維持管理、学校間連携の在り方を検討 等

#### ◇「令和の日本型学校教育」の構築に向けた ICT の活用に関する基本的な考え方

- (1) 学校教育の質の向上に向けた ICT の活用
  - ・ ICT を「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善に生かす
  - ・ 児童生徒自身が ICT を自由な発想で活用するための環境整備、授業デザイン
  - ・ 不登校や病気療養等により特別な支援が必要な児童生徒に対するきめ細かな支援、個々の才能を伸ばすための高度な学びの機会の提供 等
- (2) ICT の活用に向けた教師の資質・能力の向上
  - ・ 養成段階において、学生の 1 人 1 台端末を前提とした教育を実現しつつ、ICT 活用指導力の養成やデータリテラシーの向上に向けた教育の充実
  - ・ ICT を効果的に活用した指導ノウハウの迅速な収集・分析、新時代に対応した教員養成モデルの構築等、教員養成大学・学部、教職大学院のリーダーシップ による Society5.0 時代の教員養成の実現
  - ・ 国によるコンテンツ提供や都道府県等における研修の充実等による現職教師の ICT 活用指導力の向上、授業改善に取り組む教師のネットワーク化 等
- (3) ICT 環境整備の在り方
  - ・ 高速大容量ネットワークの整備
  - ・ 義務教育段階のみならず、多様な実態を踏まえ、高等学校段階においても 1 人 1 台端末環境を実現するとともに、端末の更新に向けて丁寧な検討
  - ・ デジタル教科書・教材等の普及促進や、教育データを蓄積・分析・利活用できる環境整備、ICT 人材の確保、ICT による校務効率化 等

※ 第Ⅱ部各論及び資料の詳細につきましては、右のQRコードや下のURLから閲覧できます。  
是非御覧ください。

[https://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chukyo/chukyo3/079/sonota/1412985\\_00002.htm](https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/079/sonota/1412985_00002.htm)



本答申では、2020年代を通じて実現すべき「令和の日本型学校教育」の姿として、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の2点が示されており、キーワードとして「ICTの活用」が挙げられる。GIGAスクール構想の前倒しによって1人1台端末が整備され、教師ができることは大きく広がる。国も教育データの標準化や、学習者用デジタル教科書の使用時数制限の撤廃を進めている。これからはICTの活用に向けた教師の資質・能力の向上を図ることが必要であることから、今後これらに関連した研修が増加することが予想される。これらの資質向上のための研修は、教師の内発的動機付けによって受講されるべきであり、また、その成果が形となるような制度も必要である。その方策の1つとしては、教員免許更新の抜本的な見直しがあると考えられる。

全日教連は、教員免許更新の見直しも含めた今後の研修の在り方について、給与法制局会議等において現場の声を集め、来年度の要望に生かしていく。